

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3670101793 | | |
| 法人名 | 医療法人 一洋会 | | |
| 事業所名 | グループホームさくら | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市下町本丁61番地の1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年1月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年3月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのできることや興味のあることを見い出して支援している。地域との交流を密に図るため、地元の交番や支所への生花ボランティアを行っている。近隣事業所との交流会や隣接する保育所の子どもたちとの触れあいなどを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲を木々に囲まれたのどかな山裾の一角に位置している。同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所、保育所等と連携を図りつつ、地域と馴染みの関係を構築している。利用者の食事は、一部を除いて同一法人の他サービス事業所と合同でつくっており、調理にかかる“手間と時間”を利用者と接する時間に当てている。利用者職員は、ともに作品を作ったり、会話をしたりする機会を多くもつよう考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所玄関に独自の理念を掲げている。職員は地域密着型サービスの役割について理解し、常に意識を持って共有している。 | 職員は、地域密着型サービスの意義に基づいて作成した理念を玄関に掲示している。管理者と職員は、つねに話しあって共有し、実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に加入し、子供会とのクリスマス会や地元の祭に参加している。また、駐在所や支所に生花を活けに出かけたり、清掃に参加したりしている。 | 町内会に加入して情報を収集している。地域の清掃や子供会、クリスマス会等に参加したり、交番等に花を生けに出かけたりして、地域との交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高齢者に対する働きかけは具体化していない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日常的な活動や地域との交流についての状況を報告し参加者と意見交換を行っている。また、参加者の意見や要望、質問等をサービスの質の向上に繋げている。 | 定期的に運営推進会議を開催している。事業所の行事予定や事業報告、意見交換等を行っている。また、事業所の取り組みや評価結果報告等も行い、参加者から率直な意見を得てサービスの質の向上に反映している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業が円滑に行われるよう、不明な点は市の介護保険課の担当者に電話や訪問等をして問い合わせ、連携を図っている。 | 日ごろの業務が円滑に行われるよう市担当者を訪問したり、電話で問い合わせたりして連携を図っている。定期的な事業報告や要介護度認定の申請等は、直接窓口を訪問している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 生命の安全上拘束が必要となった場合、家族に説明し、理解し納得をされたうえで同意書に署名していただいている。夜間は家庭と同じように防犯のため戸締りをしているが、インターホンで対応している。 | 代表者や全職員は、身体拘束による弊害を正しく理解して拘束のないケアに努めている。利用者との会話をしつつ同行するなどして、拘束のないケアの実践に努めている。玄関や居室を開錠しており、開放的な空間づくりに留意している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に関する研修に参加している。また、常に利用者に目を配り、身体的、精神的または行動に変化がないかを観察している。職員は虐待防止の重要性を認識している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者が必要な方に支援できるよう研修会や勉強会に参加し、知識を習得している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は「重要事項説明書」と「契約書」を読んで説明し、納得のうえで同意している。疑問等は職員が聞き、必要に応じて説明を行うようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常的に意見をいただきやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議や家族会への参加、意見箱の利用等で意見をいただけるようにしている。 | 家族会や面会時、運営推進会議等の機会を活用し、利用者や家族が意見や要望を表出しやすい雰囲気づくりに留意している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。また、日ごろからコミュニケーションを図ったり、時々食事会等を行ったりして意見交換を行うようにしている。 | 月1回の全体のミーティング際に意見や要望を聞いている。利用者一人ひとりの状態に応じた介助方法や勤務希望等、話しやすい雰囲気づくりに努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の疲労やストレスが溜まらないよう、休憩時間に配慮している。また、勤務実績に基づき、研修や資格取得の支援を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員に応じた研修会への参加や資格取得の支援をしたり、関連施設で行う勉強会に参加したりしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 関連する事業所との合同の行事・勉強会に参加し、交流を通じてサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用希望があれば本人や家族に事業所の見学を勧めている。事前面談を行って、生活状態を把握するよう努め本人や家族の求めていることや、不安を理解しようと工夫してる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の不安や心配事を傾聴し、理解するように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に本人と家族の思いや状況を確認して、必要としているサービスに繋がるよう援助している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者は人生の先輩として誠実な態度で接している。職員とともに支えあい、穏やかに生活できるように配慮している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族とともに本人を支えていく関係を築いている。また、家族との情報交換を密にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や知人との電話や手紙での連絡を援助する等、つながりを継続できるよう配慮している。また、入居前に暮らしていた場所等へドライブに出かけたり散歩をしたりしている。 | 利用者が以前暮らしていた場所を訪ねたり、家族や知人に電話や手紙による連絡を支援したりして、馴染みの関係が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士がともに生活する仲間と支え合い、関係がうまくいくように支援し、孤立しないように配慮している。会話の様子を伺いながら職員が間に入り、互いの話を理解できるように援助している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 事業所を移る場合は情報提供を行っている。退居先が併設事業所の場合には行き来して関係を継続し、家族からの相談に応じている。 | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりのできることや要望、言葉、表情等からその真意を推し測り、対応している。個別の「生きがいプラン」づくりを実施している。 | 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向等を聞いている。意思の疎通が困難な方には、本人本意に検討している。また、利用者一人ひとりの状態に応じた「生きがいプラン表」を作成し、一人ひとりのできることとできないことの把握に努めている。利用者職員は、囲碁や将棋、貼り絵等をともに楽しんでいる。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | プライバシーに配慮したうえで家族や関係者から情報をいただいている。また、日常生活からこれまでの暮らしぶりを把握し、事業所での生活に役立てている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解し、その人のペースを大切にサポートしている。利用者の有する力等現状を認識し、全職員が把握できるよう努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いて計画に反映させている。また、月1回介護職員部会・ケア会議を開き全職員で意見交換やモニタリングを行ない、具体的な個別計画を作成している。 | 日ごろの関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いている。月1回、介護職員部会・ケア会議を開催して意見交換を行っている。モニタリング結果にも考慮したうえで、現状に応じた介護計画書を作成している。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のファイルに食事・水分摂取量や排泄状況、バイタル等の身体状況や日々の暮らしの様子、本人のエピソード等を記録している。記録は全職員が確認し把握している。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況や要望に応じて、予定日以外の外出等にも臨機応変に対応している。また、通院等が必要な場合には、状況に応じて柔軟に対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、駐在所や民生委員、婦人会等の方との意見交換を行なっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。本人や家族等の希望に応じて納得をいただいた訪問診療・医療連携体制を取り、安心してもらっている。 | 本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。訪問診療等の医療連携体制を構築し、適切な医療の受診を支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 提携医療機関の看護師や医療連携体制の訪問看護師と、健康管理や医療面に関して気軽に相談できる関係ができています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。家族とともに情報交換しながら、回復状況を確認したうえで退院支援を行なっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の意向を踏まえて、安心して終末期を迎えることができるよう、関係医療機関や施設との連携を図って対応している。 | 本人や家族の意向を踏まえたうえで、安心して終末期を迎えることができるよう入居時の早期段階で方針について話しあっている。利用者や家族の希望に応じた支援ができるよう取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また、同一法人の他事業所である救急講習会に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て同一法人の他事業所と合同消防避難訓練を行なっている。また、月1回夜間想定も含めた独自の避難訓練を事業所内で行なっている。非常食は法人内で備蓄している。 | 年2回、消防署の協力を得たうえで、同一法人の他事業所と合同で避難訓練を実施している。また、事業所単独で、夜間を想定した避難訓練を実施しており、地域との協力体制も構築している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩として敬意を払い、本人の気持ち等を考えながら対応している。また、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように全職員で関わり方を確認しながら取り組んでいる。 | 利用者を人生の先輩として敬意を払って接している。本人の気持ちを大切に考えたうえで対応している。職員間は、話し合いを重ねており、利用者の尊重やプライバシーの確保に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者にあわせた声かけを行い、表情を読み取ったり行動を見たりして、本人が決められる場面をつくっている。また、意思表示の困難な方には関わりを多くもって表情等から希望を汲み取るよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れは決まっているが、本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮しながら柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々の希望にそって、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせてカットや毛染めをしてもらえるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 買い物や調理、盛り付け、片付け等、利用者一人ひとりの力を活かしながらもに行なっている。職員は介助のため時間がずれることもあるが、利用者と同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食べている。 | 米飯や汁物、日曜日の昼食等を事業所で調理している。その他の食事は、法人内の事業所で調理したものを運んでいる。利用者と職員は、会話しつつ盛り付けを行って食事を楽しんでいる。食卓用のテーブルは大きく、利用者の好みの食台等もあり、一人ひとりが好きな場所で食事を楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量をチェックして一日の摂取量を把握している。咀嚼や嚥下状態に合わせて調理形態を工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。自分でできる方には声かけや見守りを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。羞恥心や自尊心に配慮して、トイレでの排泄を支援している。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の動作等から尿意を察知し、トイレでの排泄に繋げるなどして排泄の自立に向けた支援に努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分補給や腸の動きを良くする体操、散歩に誘う等して自然排便を促すよう支援を行なっている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 個々のペースに合わせた入浴支援を行っている。入浴を拒む方には、声かけや誘導を工夫している。 | 利用者一人ひとりのペースに応じた入浴の支援を行っている。月・水・金を入浴日としているが、利用者の希望に応じて入浴できる体制を構築している。入浴を拒む方には、声かけや誘導に工夫し、入浴を楽しめるよう支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を観察し、生活リズムを整えるように努めている。また、体調の変化や希望等を考慮しながら、夜間に気持ちよく睡眠がとれるように配慮している。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイルを作成し、職員が薬の内容を把握できるようにしている。服薬時には名前を声に出して確認し、直接介助してきちんと服薬できているかを確認している。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように役割を担ってもらい、感謝とねぎらいの言葉かけをしている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の体調や気分、天候に応じて日常的に散歩やドライブを楽しんでいる。隣接する保育園の園児と、庭のベンチに座って外気に触れる機会をつくっている。 | 本人の体調や気分に応じ、散歩やドライブ等の外出支援を行っている。天候により、花見に出かけたり、隣接する保育所の子も達と庭のベンチに座って外気に触れたりしている。また、家族とともに外出できるよう取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 1ユニット 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の協力を得て、小額の金額を所持されている方もいる。買物時には自分で支払いをしてもらえるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や知人等に電話しやすい雰囲気をつくり、申し出に応じて援助している。近況報告等も外部との通信のきっかけとしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に利用者の言動に留意しテレビの音量や採光に配慮している。生活感や季節感のあるものを活用しながら、生活の場を整えている。 | リビング等の共用空間は広く、食事・作業兼用の机やソファを設置している。壁面には、利用者や職員のつくった貼り絵や絵画を飾っている。1階の窓からは隣接する保育所の子どもの様子が見える。居心地よく生活できるよう共用空間を整備している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアや廊下にソファを設置している。一人になれるスペースや仲の良い利用者同士がくつろげる空間づくりをしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族と相談し、使い慣れた物や家具等を持参してもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。 | 利用者は、使い慣れた馴染みの机や家具等を持ち込んでいる。家族と相談し、本人が居心地よく過ごすことができるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 状況に合わせて環境整備をしている。状態が変わり新たな混乱が生じた場合は、そのつど職員が話し合い、それぞれに合わせた工夫をしている。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2ユニット | 自己評価 | 自己評価 |
|--------------------|-----|--|---|-------|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ホーム玄関に事業所独自の理念を掲げ、職員は地域密着型サービスとして役割について理解し、常に意識を持って共有している。 | | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に所属し、地域の子供会を招いてクリスマス会を開催したり地元の祭に参加している。また、駐在所・支所に生花を活けに出掛けたり、清掃に参加したりしている。 | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の高齢者に対する働きかけは具体化していない。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 日常的な活動や地域との交流についての状況を報告し参加者と意見交換を行っている。また、参加者の意見・要望・質問等を職員に伝達してサービスの質の向上に繋げている。 | | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 事業が円滑に行われるよう、不明な点は市の介護保険課の担当者に電話や訪問等を行うなどして問い合わせたりしながら連携を図っている。 | | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間は家庭と同じように防犯のため戸締りをしている。夜間の訪問についてはインターホンで対応している。 | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待に関する研修に参加して。また、常に利用者にも目を配り、身体的、精神的または行動に変化がないかを観察し職員に虐待防止の重要性を認識してもらっている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 2ユニット 実践状況 | 自己評価 実践状況 | 自己評価 実践状況 |
|----|-----|--|---|--------------|--------------|
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用者が必要な方に提供できるよう研修会や勉強会に参加し、知識を習得している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時は「重要事項説明書」と「契約書」を読んで説明を行い、納得していただいた上で同意していただいている。疑問等は常に職員が伺い、必要に応じて説明を行うようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常的に意見をいただきやすい雰囲気作りに留意している。運営推進会議・家族会への参加・意見箱の利用などで意見をいただけるようにしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。また、日頃よりコミュニケーションを図ったり、時々食事会等を行ったりして意見交換を行うようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の疲労やストレスが溜らないよう、休憩時間に配慮している。また、勤務実績に基づき、研修や資格取得の支援を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員に応じた研修会への参加や資格取得の支援をしたり、関連施設で行う勉強会に参加したりして。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 関連する事業所との合同の行事・勉強会に参加し、また研修で一緒になった施設と連絡を取り合ったりしながら交流を通じてサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------|-----|--|---|------|------|
| | | | 2ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用希望があれば本人、家族にホームの見学を勧めている。事前面談を行って、生活状態を把握するよう努め、本人や家族の求めている事、不安を理解しようと工夫している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の状況をよく聞いて不安や心配事を傾聴し、理解するように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に本人と家族の思いや状況を確認して必要、希望に応じたサービスを提供できるよう取り組んでいる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、利用者は人生の先輩として誠実な対応で接している。本人の思いを把握して共感し、協力し合って過ごす中で共に学んだり支えあう関係を築き、穏やかに生活できるように配慮している。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日々の暮らしの出来事や気付いた情報の共有に努め、利用者の現状を知ってもらい家族と共に利用者を支援するように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や知人との電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりを継続できるよう配慮している。また、入居前に暮らしていた場所や利用者にとって思い出のある場所等へドライブに出掛けたり散歩をしたりしている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係や力、個性を活かせるように支援し、孤立しないように配慮している。また、心身の状態や気分、感情で変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2ユニット | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|---|-------|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 事業所を移られる場合は情報提供を行うようにしている。退居先が併設事業所の場合には行き来して関係を継続し、退居後も状態を気にかけて家族からの相談に応じている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとり出来る事や要望、言葉や表情などからその真意を推し測り個別に対応している。個別の「生きがいプラン」づくりを実施している。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | プライバシーに配慮し、家族や関係者から情報をいただいている。また、日常の会話や行動のなかからも生活層を見出す様努め、ホームでの生活に役立てている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者一人ひとりの暮らし方や生活リズムを理解し、その人のペースを大切にサポートしている。 生活の中で、利用者の有する力等の現状を把握し全職員が認識できる様努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃の関わりの中で、本人や家族の思いや意見を聞いて計画に反映させている。また月1回、介護職員部会・ケア会議を開き全職員で意見交換やモニタリングを行ない、具体的な個別計画を作成している。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別のファイルを作成し、食事・水分摂取量、排泄状況やバイタル等の身体状況及び日々の暮らしの様子、本人のエピソード等を記録している。記録は全職員が確認し、情報の共有を図り実践に繋げている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況や要望に応じて、予定日以外の外出等にも臨機応変に対応している。また、通院等が必要な場合には、状況に応じて柔軟に対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 2ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように、駐在所や民生委員、婦人会等の方との意見交換を行なっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。本人や家族等の希望に応じて納得をいただき訪問診療・医療連携体制を取り、安心してもらっている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 提携医療機関の看護師や医療連携体制の訪問看護師と、健康管理や医療面に関して気軽に相談できる関係ができています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供して、家族と共に情報交換を行ないながら回復状況を確認した上で退院支援を行なっている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人や家族の以降を踏まえて、安心して終末期を迎える事ができるよう、関係医療機関や施設との連携を図って対応している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の対応についてのマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。また関連施設である救急講習会に積極的に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て関連施設と合同消防避難訓練を行なっている。また月1回、夜間想定も含めた独自の避難訓練をホーム内で行なっている。非常食は法人内で備蓄している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|---|--|------|------|
| | | | 2ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の先輩として敬意を払い、本人の気持ちなどを考えながら対応している。また、利用者の誇りやプライバシーを損なわないように細心の注意を払い全職員で関わり方を確認しながら取り組んでいる。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者に合わせた声かけを行い、表情を読み取ったり行動を見たりして、本人が決められる場面を作っている。また、意思表示の困難な方には関わりを多くもって表情等から希望を汲み取る様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに応じた支援を心がけている。本人の気持ちを尊重し体調にも配慮しながら柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 個々の希望にそって、身だしなみやおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。希望に合わせてカットや毛染めをしてもらえるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 買い物や調理、盛り付け、片付け等、利用者一人ひとりの力を活かしながら共に行なっている。職員は介助の為時間がずれる事もあるが、利用者と同じ食事を摂り、会話を楽しみながら食べている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量をチェックして一日の摂取量を把握している。咀嚼や嚥下状態に合わせて調理形態を工夫している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 利用者の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。自分でできる方には声かけや見守りを行ない、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|---|------|------|
| | | | 2ユニット 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、羞恥心や自尊心に配慮して出来るだけトイレでの排泄を促している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 十分な水分補給や、腸の動きを良くする為に体操や散歩に誘うなどして自然排便を促すよう支援を行なっている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ゆっくりと入浴したい方には入浴の順番を変える等配慮している。また、男性職員の介護を拒まれる場合、職員を交代して対応している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を観察し生活リズムを整えるように努めている。また、体調の変化や希望等を考慮しながら夜間気持ちよく睡眠がとれるように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者一人ひとりの服薬や効能を一覧にまとめてファイルを作成し、自由に閲覧できるようにしている。誤薬予防のために服薬時には名前を声に出し確認し直接介助を行い、きちんと服薬できているかの確認をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者一人ひとりの得意分野を見つけ、力が発揮できるように仕事を頼んだり、自信を高められるように感謝と労いの言葉掛けを行い支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の体調や気分、天候に応じて日常的に散歩やドライブを楽しんでいる。隣接する保育園の園児と庭のベンチに座り外気浴に触れる機会を作っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2ユニット | 自己評価 | 実践状況 | 自己評価 | 実践状況 |
|----|------|--|------|--|------|------|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | | 家族の協力を得たうえで、小額の金額を所持されている方もいる。買物時には自分で支払いをしてもらえるように支援したりしている。 | | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | | 申し出があれば電話を取り次ぎ外部へかけている。子機を利用してプライバシーに配慮し、家族や知人に電話をかけやすい環境をつくっている。 | | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | 常に利用者の言動に留意しテレビの音量や採光に配慮して、生活感や季節感のあるものを活用しながら生活の場を整えている。 | | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | | フロアや廊下にソファを設置している。一人になれるちょっとしたスペースや気の合う利用者が少人数で安心して過ごせるような共有空間の整備・提供を心がけている。 | | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | 本人や家族と相談し、使い慣れた物や家具等を持参してもらい、居心地の良い居室作りに取り組んでいる。 | | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | | 状況に合わせて環境整備をしている。状態が変わり新たな混乱が生じた場合は、その都度職員が話し合いそれぞれにあわせた工夫を行っている。 | | | | |